

1

見え方のABCDってナニ？

今、幼稚園や学校での視力検査では、眼科診療所のように視力を「0.1」きざみに判定する方法はほとんど行われていません。「1.0」、「0.7」、「0.3」の3つの指標を用いて子どもたちの見え方を調べ、「A」「B」「C」「D」の4段階の評価に分ける方法が広く用いられています。

「A」は視力1.0以上で正常視力、「B」は視力0.7以上1.0未満に相当し、教室での見え方に問題はありませんが、近視の始まりなどが疑われます。「C」は視力0.3以上0.7未満に相当、教室では後方の席に座ると支障があり、視力が0.3未満の「D」では教室の前の席に座っても黒板の文字が十分に読み取れない状態です。

「B」以下の子どもは、学校生活に支障をきたすだけでなく、近視など、何らかの目の病気が疑われるため、園や学校では眼科を受診するように勧めています。ただ幼稚園の年中児までは、視力の発達段階でもあり眼科受診の対象を「C」以下の園児とする傾向にあります。



見え方のABCD

- A (1.0以上): 1番後ろの席からでも、黒板の文字はよく見えています。
- B (0.7~0.9): 後ろの方でも黒板の文字はほとんど読めますが、近視の始まりのことが多く、眼科受診を勧めます。
- C (0.3~0.6): 後ろの方では黒板の文字は見え難く、近視以外の目の病気にも注意。眼科受診が必要。
- D (0.3未満): 前の方でも黒板の見え方は十分とはいえません。すぐに眼科へ。

※(社)日本眼科医会